

「もんじゅ」サイトに新たに設置する試験研究炉について

新試験研究炉設置に向けた今年度の取組みについて

新試験研究炉の設置に向けては、2023年3月より詳細設計段階に移行し検討を進めているところです。今年度は2024年中に原子炉設置許可申請の見込み時期を提示できるよう、次の取組みを実施してまいります。

今年度の主な取組み

原子炉設置許可申請に向けた詳細設計

●原子炉の設計に向けた作業

主要な設備・機器について設置許可基準規則に適合する基本設計方針の検討

●作業工程の検討

設置許可申請見込み時期までの作業工程の検討

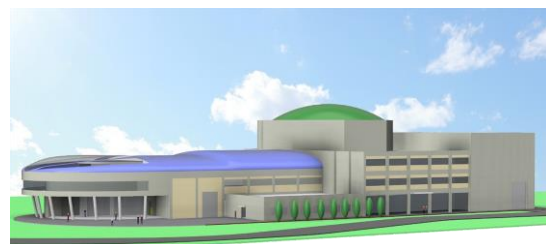
もんじゅ敷地内地質調査

●ボーリング調査の実施

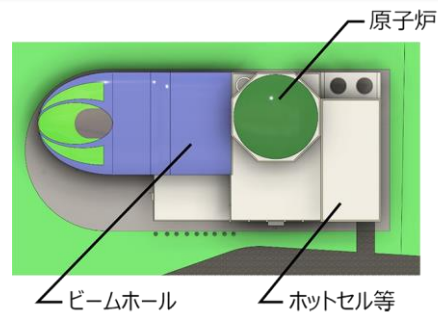
これまでに採取したボーリングコアの分析、ボーリング作業の継続

●総合的な建設地としての適合性判断

自然事象の影響、地質調査の結果や土地造成コスト等の確認
「もんじゅ」廃止措置工程との干渉



新試験研究炉完成予想図



●本資料に関するお問合せ先●

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 敦賀事業本部 地域共生部 地域共生・広報課

〒914-8585 福井県敦賀市木崎65-20

【TEL】0770-21-5026 【FAX】0770-21-2045

原子力機構ホームページ：<https://www.jaea.go.jp>

敦賀事業本部ホームページ：<https://www.jaea.go.jp/04/turuga/>

発行：2024年5月



「敦賀事業本部からのお知らせ」のページはこちらから



原子力機構 敦賀事業本部からのお知らせ

地域の皆さまへ - 就任のご挨拶 -

4月1日付で敦賀廃止措置実証部門長(理事)に近東正明、新型転換炉原型炉ふげん所長に水井宏之が就任いたしました。

当機構の事業推進に関し、平素より多大なご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。4月1日付で敦賀廃止措置実証部門長(理事)に就任いたしました近東です。

私は、これまで関西電力において、主に品質保証に関する業務に携わってまいりましたが、これまでの知識や経験を活かし、安全確保を最優先に「ふげん」、「もんじゅ」の廃止措置等に取り組んでまいりたいと考えております。

「もんじゅ」で実施しているしゃへい体等の取出しにつきましては、10月頃予定の作業再開に向けた対応を確実に実施してまいります。また、当機構では責任の明確化や意思決定の迅速化等を目的に組織改正を進めておりますが、敦賀地区においては、これまでの機能の維持を前提として、組織改正を実施してまいります。さらに、新試験研究炉につきましても、2024年中に原子力規制委員会への原子炉設置許可申請の見込み時期を提示することとしておりますが、引き続き福井大学、京都大学と連携して詳細設計を進めてまいります。

今後も、地域の発展に貢献すると共に、地域の皆様からの信頼を頂けるよう、安全を第一に、着実に事業を推進してまいりますので、変わらぬご理解・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



敦賀廃止措置実証部門長(理事)

こんどう まさあき
近東 正明

平素より、新型転換炉原型炉ふげんの業務に関し、ご理解とご支援を賜り誠にありがとうございます。4月にふげん所長に就任いたしました水井です。

現在、「ふげん」では、安全確保を最優先に、環境への負荷軽減を目指して、設備の汚染の除去や「放射性廃棄物として扱う必要のないもの」の再生利用を目指したクリアランス制度を運用しながら解体撤去等を進めています。また、使用済燃料搬出に向けた諸準備や、廃止措置計画の第3段階で実施する原子炉本体解体に向けた技術開発等も進めています。

私ども所員一同、地域の皆様のご理解を賜りながら、安全で安心していただける廃止措置プロジェクトの実証を目指し、緊張感をもって取り組んでまいりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。



新型転換炉原型炉ふげん所長

みずい ひろゆき
水井 宏之



高速増殖原型炉もんじゅ

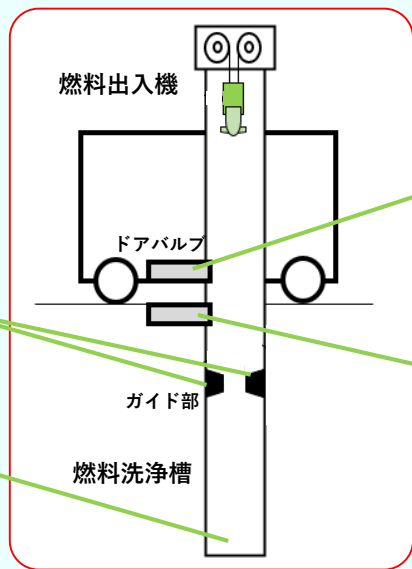
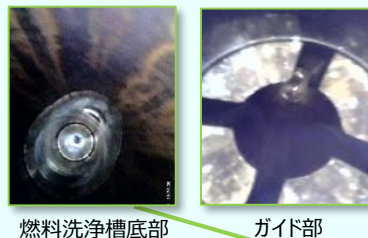
しゃへい体等取出し作業に係る今後の見通しについて

～これまでの経緯～

昨年10月に作業を中断したしゃへい体等取出し作業では、その要因となった燃料移送ポットについて、1月24日に燃料移送ポットとしゃへい体等を一体で吊り上げる回収作業を完了しました。その後、使用していた機器の設備点検、再発防止策の検討を進めてまいりました。

設備点検結果について (2月19日～4月12日実施)

- 対象機器の**外観に異常はなく、作動状態も正常**であることを確認しました。
- 機器の破損、傷等はみられませんでした。



主な点検対象設備

再発防止策について

これまで...

移送対象のしゃへい体等を確実に吊り上げたかどうかの判定を、**一定の荷重値の確認のみ**で行って行っていました。

今後は...

あらかじめ移送対象のしゃへい体等を計測した**荷重計画値と、吊り上げた際の実測値の差異を確認**することで、移送対象物のみを確実に吊り上げたかどうか、判定できるようにいたします。

今後の見通し

現在は、施設全体の定期事業者検査を行っており、しゃへい体等取出し作業に係る検査を9月から実施し、**10月頃に作業再開**を見込んでいます。なお、しゃへい体等取出し作業は、当初の計画どおり2026年度に完了する見込みです。

廃止措置事業等の実施にあたっては、安全確保を最優先に、立地地域並びに国民の皆さまのご理解をいただきながら進めてまいります。

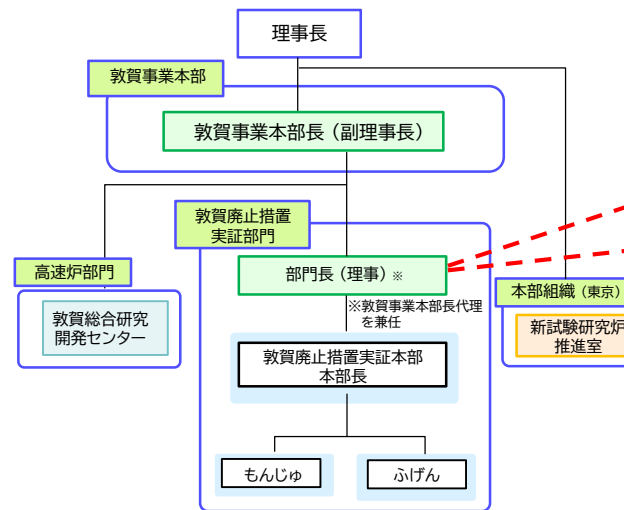
敦賀地区の廃止措置に係る組織改正について

原子力機構では、複雑化した組織を見直し、責任の明確化や意思決定の迅速化等を図ることを目的として組織改正を行うこととしています。

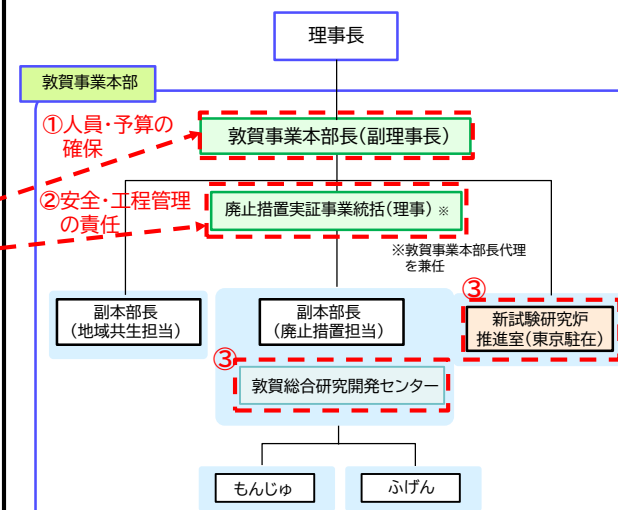
敦賀地区においては、「もんじゅ」廃止措置移行時に整備した機能を維持しつつ、次の①～③を中心に組織改正を行ってまいります。

- ① 人員・予算等の権限を部門長から敦賀事業本部長に移し、より高い経営レベルで予算や人員の確保・配分を可能とする。
- ② 理事が廃止措置実証事業統括として引き続き敦賀地区に常駐し、「ふげん」「もんじゅ」の廃止措置を安全・着実に進める責任をもつ体制を継続する。
- ③ 敦賀総合研究開発センターや新試験研究炉推進室を敦賀事業本部に組み込むことで、「ふげん」「もんじゅ」の廃止措置との連携を強化する。

改正前の組織



改正後の組織



今回の組織改正については、原子力規制委員会に保安規定の変更認可申請を行っており、今後その認可をいただいた後に実施する予定です。